

自然からも 社会からも 未来からも

## 収奪をしない有機農業



子どもたちの  
目的は田植え  
よりも田んぼ  
にいるカブト  
エビや豊年エ  
ビです。

### 就農のきっかけはエチオピアの農村での体験

東京から電車で1時間、都市化の進んだ場所にガバレ農場はあります。毎日、何万台もの車が走る国道や、もうすぐ閉店してしまう大型のショッピングセンター、住宅に工場と、有機農業のイメージとは正反対の場所にある農場は、都市化した街のオアシスの雰囲気を持っている気がします。

日本で一番暑い熊谷に隣接した鴻巣市は、昔、農業試験場のあった場所であることを知る人も少なくなりました。この地域の農業は、米と麦を大規模に経営する少数の農家が中心で、宅地周りの田んぼを耕す農家の平均年齢も70歳を大きく超えています。残念ながら、地域で有機農業をしているのは私たちを含め少数ですが、都会からの距離を考えると、地域と都会をつなぐおもしろい場所とも言えます。

私たちが基本としているのは、「収奪をしない農業」です。自然からも、社会からも、そして未来からもです。私たちが有機農

ガバレ農場  
江原浩昭・広美  
えばら ひろあき・ひろみ  
プロフィール

二人とも大学卒業後に青年海外協力隊に参加し、それぞれアフリカのザンビア、マラウイに派遣される。その後、日本国際ボランティアセンターのスタッフとしてエチオピアで、農村復興プログラムに参加するも内戦の影響で食糧配給や栄養調査の活動がメインとなった。



帰国後、浩昭の実家に戻り、有機農業を始める。

〒369-0132  
埼玉県鴻巣市前砂 359  
TEL & FAX 048-548-1173  
e-mail  
gabarehiroba2@yahoo.co.jp

業を始めるきっかけとなったのは、日本のNGOである日本国際ボランティアセンターのスタッフとして、アフリカのエチオピアに派遣されたことでした。

もう四半世紀も前の話ですが、当時のエチオピアは干ばつのために飢餓が起こり、百万人もの人が亡くなりました。最悪の状況は峠を超え、飢餓が起こらないように何をすべきかを考え始めている時にエチオピアに入った私たちは、そこで出会った農民たちから多くのことを感じ、学びました。厳しい状況であるにも関わらず、農業を続ける意思や想いはもちろん、「食べる」ということについては強烈なパンチを見舞われた感じでした。

ある日本人スタッフの誕生日に、私たちは市場で山羊を買い、プレゼントしました。週に一度開かれる市は、村の人にとっては楽しみな時間であり、現金を得る場でもあり、情報交換の場でもありました。おいしい山羊を見分ける方法を知らない私たちは、エチオピア人スタッフと一緒に市に出かけ、「これは年を取りすぎだ」とか、「日本人がいると高くなるから隠れてくれ」などと楽しい買い物時間を過ごし、「今日は山羊肉パーティーだ」と嬉しそうなエチオピア人スタッフと宿舎に戻りました。

エチオピアにやってきて間もない日本人スタッフは、山羊のプレゼントに驚きながら「ペットにしたい」と言いました。肉を期待していたエチオピア人たちは「ペット???」の意味が分からず、「日本人は肉を食べないのか?」と聞いてきました。日本にはスーパーがあつて、いろんな肉が売られていると話すと、「それは、誰が、どう肉にしたのかわかるのか?」「そんなこともわからずに肉を食べるのは、山羊に対して失礼だ」と叱られました。

## 食卓と農場の距離を近づける

私たちの農場では、イベントとして、田植え、稲刈りの他、田んぼに放していた合鴨の命をいただく「鴨の会」も行っています。小さなお子さんを連れた家族や、大人のグループなど、30〜50人ほどが集まり、合鴨を絞め解体し、そしておいしくいただくまでを体験していきます。

「1週間ほど前から緊張していました」と話す人や「子どもが肉を食べられなくなってしまうけど、大丈夫でした」と話す人など、参加した人それぞれが何かを感じる会となっています。

ある時、「私は今まで大根を抜いたことがないので、大根を抜く体験をさせてください」という学生さんがいました。その人はスーパーに並んでいる大根を見て、大根は土の中に育つものではなく、茎から横になるようにして育つものだと思っていたそうです。スーパーで見る大根はどれも横になっているからです。

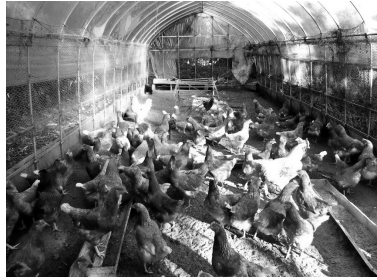
このようなケースは稀なものだと思いたいのですが、食卓と農場の距離が、物理的よりも意識的に離れてきている現代では、笑い話としてしまうことはできない気がします。

## 自然からの収奪を少なくするための有畜複合農業

さて、収奪をしない農業ですが、私たちは技術も思想もまだ発展途上です。自然はあまりに大きく、時に脅威となり、茫然とさせられることが多々あります。そんな時に思い出すのがエチオピアの農民たちです。私たちの農場の名前であるガバレは、エチオピアの言葉で「農民」という意味です。（よくガンバレ農場と勘違いされますが）彼らの農民としての強さを思い出し、自分たち



鴨の会  
かわいそうが美味しそうにかわって  
いきます。



平飼い養鶏  
鶏たちは卵と堆肥を提供してくれ  
ます。

の原点に戻るようにしています。  
自然からの収奪を少しでも少  
なくするためには、有機農業の  
技術が不可欠です。畑や田んぼ  
と平飼い養鶏を組み合わせた有  
畜複合農業は、そのための方策  
の一つだと考え、有機農業を始  
めた時から実践しています。社  
会からの収奪を減らすのは、食  
べる人と農場の距離を縮めるこ  
とが大切だと考えています。提  
携の関係を作ることもその一つ  
です。私たちの農場はガバレ農  
場と書き、ガバレひろば、と読  
みます。都会からの距離が近い  
こともあり、多くの人が集まれ  
る広場になれるような場所とし  
て機能できればと考えています。  
海外からのウーフを受け入れて

いるのも、その一環です。

今、作物を育てている畑も田んぼも未来からの借り物という考  
え方がありますが、次の世代へとつなげられるように未来からの  
収奪をなくすことが、本当は大切なのですが、今だけ、金だけ、  
私だけ、という生き方が蔓延している現代では、未来の姿を想像  
するのは難しいかもしれません。有機農業が未来へとつながるこ  
とを伝えるのも、有機農業技術の大切な役割かもしれません。